

小論文

(環境科学部環境生態学科)

サンプル問題

作成の趣旨

- 本サンプル問題は、令和7年度一般選抜試験から新たに試験科目として設定することを予定している『小論文（環境科学部環境生態学科）』に関する試験問題について、具体的なイメージを共有するために作成・公表するものです。今後、大学入学者選抜としての適切な出題について引き続き検討することとしています。
- 本サンプル問題は、具体的なイメージの共有のために作成したものであるため、以下の点に十分御留意いただきますようお願いします。
 - ・『小論文』の問題構成は未確定であり、今後、検討されるものであるため、本サンプル問題の構成は、実際の問題セットをイメージしたものではありません。
 - ・本サンプル問題は滋賀県立大学教員により作成されたものですが、過去の一般選抜試験と同様の問題作成や点検のプロセスを経たものではなく、また、実際の問題セットをイメージしたものや試験時間を考慮したものでもありません。令和7年度一般選抜試験から『小論文』が出題される際には、適切な分量と難易度のもとで問題セットが作成されることになります。
 - ・サンプル問題であるため、A4版で作成しています。

小論文サンプル問題

問題：下記の語句の中から一つを選び、「自然との共生」について、あなたの考えを述べなさい。字数は句読点を含めて、400字程度とする。

※この問題は論理的な思考、人に物事を伝える表現ができるかどうかを主体として問うものであり、考えが客観的に正しいか否かは問わない。

【選択する語句】

- ・ 気象
- ・ 地震
- ・ 火山

試験時間：60分

小論文

(環境科学部環境政策・計画学科)

サンプル問題

作成の趣旨

- 本サンプル問題は、令和7年度一般選抜試験から新たに試験科目として設定することを予定している『小論文（環境科学部環境政策・計画学科）』に関する試験問題について、具体的なイメージを共有するために作成・公表するものです。今後、大学入学者選抜としての適切な出題について引き続き検討することとしています。
- 本サンプル問題は、具体的なイメージの共有のために作成したものであるため、以下の点に十分御留意いただきますようお願いします。
 - ・『小論文』の問題構成は未確定であり、今後、検討されるものであるため、本サンプル問題の構成は、実際の問題セットをイメージしたものではありません。
 - ・本サンプル問題は滋賀県立大学教員により作成されたものですが、過去の一般選抜試験と同様の問題作成や点検のプロセスを経たものではなく、また、実際の問題セットをイメージしたものや試験時間を考慮したものでもありません。令和7年度一般選抜試験から『小論文』が出題される際には、適切な分量と難易度のもとで問題セットが作成されることになります。
 - ・サンプル問題であるため、A4版で作成しています。

問題 1 次の文章は、除本理史・佐無田光『きみのまちに未来はあるか？——「根っこ」から地域をつくる』の一部である。これを読んで、後の**問い（問1, 2）**に答えよ。

本文（省略）

（除本理史・佐無田光『きみのまちに未来はあるか？——「根っこ」から地域をつくる——』157ページ11行目～163ページ12行目所載。岩波ジュニア新書，2020年。出題にあたり縦書きを横書きに改め，一部に必要な改変を行っている。）

問 1 筆者が述べている「モノ」と「コトづくり」について，文中で紹介されている大阪での長屋リノベーションの事例の場合では具体的に何のことにあてはまるのかそれぞれ200字以内（句読点を含む。）で簡潔に説明せよ。

問 2 「地域のリノベーション」の考えにもとづいて実施する地域おこし，まちづくりの例を述べよ（実在する事例でなくても構わない）。また，そのような地域おこし，まちづくりを推進していく上で重要になる取り組みについて，あなたの考えを1000字以内（句読点を含む。）で論じなさい。

問題 2 「水の消費と節約」について、以下の条件に関する文章を読んで、後の**問い(問1~5)**に答えよ。

地球上の水資源は限られている。水は、生活用水として私たちの日常生活を支えるだけでなく、工業用水や農業用水などとして社会経済活動を支え、流域の生態系も支えている。ここでは、私たちの社会における水の消費について、数理モデルで考察し節約策を提案することを考える。

なお、数理モデルとは、実際の事象や現象について数式を用いて表現するものである。例えば、ある家庭で入浴のために1日に使うお湯の量が、バスタブ1杯分で150リットル、シャワー5分で20リットルとする。そこで、家庭での1日のお湯の使用量を y とした場合、バスタブを a 回、シャワーを b 回使用するとすると、以下のように定式化できる。

$$y = 150a + 20b$$

このモデルを使えば、バスタブやシャワーの使用回数から1日のお湯の使用量を計算することができる。

問 1 私たちの日常生活や社会経済活動において水を使用する主な場面（入浴以外）を3つ挙げよ。

問 2 選んだ3つの使用場面に関して、1日の水の使用量を推定する数理モデルをそれぞれ作成せよ。なお、使用する変数や関係性、仮定について明記すること。

問 3 3つの使用場面それぞれについて、モデル作成の過程で取り入れた仮定のもと、実際の1日の水の使用量を計算せよ。

問 4

- (1) 使用場면을1つ選び、水の節約方法を150字以内（句読点を含む。）で提案せよ。
- (2) (1)の方法を取り入れた場合の新しい数理モデルを作成せよ。また、節約方法を取り入れることでどれくらいの水を節約できるのかを計算せよ。

問 5 この数理モデルを通じて得られた知見や、私たちの日常生活や社会経済活動での水の節約についての考察・提案を500字以内（句読点を含む。）で述べよ。

グループ面接

(環境科学部生物資源管理学科)

サンプル問題

作成の趣旨

- 本サンプル問題は、令和7年度一般選抜試験から新たに試験科目として設定することを予定している「グループ面接(環境科学部生物資源管理学科)」に関する試験問題について、具体的なイメージを共有するために作成・公表するものです。今後、大学入学者選抜としての適切な出題について引き続き検討することとしています。
- 本サンプル問題は、具体的なイメージの共有のために作成したものであるため、以下の点に十分御留意いただきますようお願いいたします。
 - ・『グループ面接』の問題構成は未確定であり、今後、検討されるものであるため、本サンプルの構成は、実際の問題セットをイメージしたものではありません。
 - ・本サンプル問題は滋賀県立大学教員により作成されたものですが、過去の一般選抜試験と同様の問題作成や点検のプロセスを経たものではなく、また、実際の問題セットをイメージしたものや試験時間を考慮したものでもありません。令和7年度一般選抜試験から『グループ面接』が出題される際には、適切な分量と難易度のもとで問題セットが作成されることとなります。
 - ・サンプル問題であるため、A4版で作成しています。

**【令和7年度 一般入試
(前期日程試験および後期日程試験)】**

生物資源管理学科グループ面接 サンプル問題

日本における米の 1 人当たりの年間消費量は、1962 年度(昭和 37 年)をピークに減少傾向となっています。米以外の作物の作付を増やすことで生産の抑制を目指すか、米の消費拡大を進めるか、どちらを優先させるべきでしょうか。理由とともに答えなさい。

グループ面接要領:

黙読と解答資料作成、説明、グループ討論

1グループ人数: 5名~8名程度

グループ面接 (工学部材料化学科) サンプル問題

作成の趣旨

- 本サンプル問題は、令和7年度一般選抜試験での試験科目として設定することを予定している「グループ面接(工学部材料化学科)」に関する試験問題について、具体的なイメージを共有するために作成・公表するものです。今後、大学入学者選抜としての適切な出題について引き続き検討することとしています。
- 本サンプル問題は、具体的なイメージの共有のために作成したものであるため、以下の点に十分御留意いただきますようお願いいたします。
 - ・『グループ面接』の問題構成は未確定であり、今後、検討されるものであるため、本サンプルの構成は、実際の問題セットをイメージしたものではありません。
 - ・本サンプル問題は滋賀県立大学教員により作成されたものですが、過去の一般選抜試験と同様の問題作成や点検のプロセスを経たものではなく、また、実際の問題セットをイメージしたものや試験時間を考慮したものでもありません。令和7年度一般選抜試験から『グループ面接』が出題される際には、適切な分量と難易度のもとで問題セットが作成されることとなります。
 - ・サンプル問題であるため、A4版で作成しています。

材料化学科グループ面接 サンプル問題

ヘアスプレーや殺虫剤などのスプレー缶のガスには、昔はフロンが使われていました。ところが、フロンがオゾン層を破壊するとわかったため、現在は別のガスが用いられています。以下の問いに対するあなたの考えを解答用紙に記述してください。

(1) 以下の中からスプレー缶のガスに適する物質をひとつ挙げてください。



(2) (1)の物質を選んだ理由を、スプレー缶に用いるガスとして必要な性質や特徴を踏まえて説明してください。また、スプレー缶に用いるガスとして、(1)の選択肢にはない他の適切な物質をひとつ以上挙げてください。

グループ面接要領

課題黙読と解答作成、個別説明、グループ討論、討論後の解答作成

1 グループ人数：5名程度